

対談企画第3回

行く！ 角記者が すみきしゅ



令和2年12月15日

ケアヴィラ宝塚広報委員会では、昨年より、働いているスタッフと広報委員会のメンバーが対談し、仕事に対する思いや心構え、またプライベートなどの素顔に迫る対談企画を行なっています。

今回は第3回として、新谷 康宏(しんたに やすひろ) 事務長にお話をうかがいました。インタビュアーは広報委員会委員長の角(すみ)が担当しました。ぜひ、お楽しみ下さい！



新谷 康宏(しんたに やすひろ)

昭和30年生まれ。

昭和52年 近畿大学商経学部経済学科卒。

昭和52年～西宮信用金庫(関西西宮信用金庫)にて勤務。

平成23年～医療法人敬愛会西宮敬愛会病院勤務。

平成30年～ケアヴィラ宝塚事務長として着任。

ご自身の経歴について

角記者(以下、角):本日、広報委員会の取材3回目となります。兵庫谷施設長、河田介護部長に続きまして、今回は新谷事務長にお話を色々とお伺いします。よろしくお願いいたします。

新谷事務長(以下、事務長):よろしくお願いいたします。

角:新谷事務長は、ケアヴィラ宝塚に事務長として着任されて今年で3年目となりますね。これまでの経歴についてお聞かせいただけますか。

事務長:大学卒業後、地元の信用金庫に入りました。選んだ理由というのが、人と話すのが割と好きで、それと、お金を扱うというのが、大切なものを扱っているというところに誇りを感じて、色々とはありましたが、結果、34年間勤めることになりました。

最後は支店長として働いておりましたが、そこから縁あってまず、病院で勤務することになりました。西宮北口にありますが、西宮敬愛会病院です。当初は経理を担当し、そして人事・総務関係まで担当しました。入社後2年位で、事務長にという声がかかりまして、そこで事務長職をしました。

そして又縁があり、医療法人尚和会ケアヴィラ宝塚にお声かけいただき、平成30年4月1日に入職という運びになりました。

前職の経験で役に立ったこと

角:違うお仕事をしてみて感じた点や、前職までの経験で役に立っていることはありますか。

事務長:例えば、少し話はずれますが、テレビドラマで「半沢直樹」ってありましたよね。

ドラマの中でこんな言葉があったんです。貸すも親切、貸さぬも親切、あの言葉をおっしゃったのは、城南信用金庫の会長さんでした。金融機関は条件があえばお金をご融資するのですが、実際お貸しするお金がその人のためになるお金なのか、ご融資させていただいたお金がその人のためにならない、又は、社会的にだめな事には貸したらだめですよ・・・

そういう真意があるんです。こちらに来て、介護という分野で、いくなれば、介護、助けるも親切、助けられないも親切、その人の体力、身の回りのケア、リハビリを経て、在宅復帰をする時に、何から何まで、これして、あれしてとなってくると、リハビリの成果も上がらず、その人のためにならないですよ。皆さんも感じる場所があると思うんですけども、どこまで介護したらいいのか、ここはご自分で動くべきと、その辺りが介護の世界にも繋がっているように、「半沢直樹」を見ながら思いました。

角:なるほど。介護の世界にも通じるものがありますね。いい言葉ですね。

事務長:その人のためになっているかどうかが大切ですね。

photo

右上:ゲスト様の書道クラブに飛び入り参加

右下:座右の銘をしたためられました



座右の銘、信条としていること

角:仕事をする上で信条とされていることや座右の銘はありますか。

事務長:「一期一会」と、あとは山本五十六が好きです。山本五十六は、連合艦隊司令長官として戦争を指揮されて、ワンマン的な世界のはずなんです。けれども、山本五十六の言葉で、「苦しい事もあるだろう、言いたい事もあるだろう、不満な事もあるだろう、腹の立つ事もあるだろう、泣きたい事もあるだろう、これらをじっとこらえてゆくのが男の修行である」や、「やってみせ、言って聞かせてさせてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」というのがあります。リーダーがまず率先してやってみる、部下にこうやってやるんですよとさせてみせる、やったところをよくやったねと褒めてあげる。でないとなんか動かないって言葉、山本五十六の考え方、非常に好きですね。



角：僕は、幕末の武将がね、大河ドラマで今「麒麟がくる」をやっていますが、明智光秀、織田信長が好きです。色々名言も残してます。武将の生き方っていうのも魅力的ですよ。

山本五十六の言葉が部下をまとめるうえでヒントになっているのでしょうか。

事務長：部下に信用されるというのは、やはりそういう姿勢が一つの基本になってくると思いますね。

プライベートあれこれ

角：どんな学生時代を過ごされましたか。

事務長：学生時代はね、波のない学生時代でした、勉強は、真ん中くらい、中学時代は陸上部、高校からは帰宅部でした。大学時代・社会人ではスキーをやりました。われわれの年代からスノーボードが流行ってきて、それまでスキーばかりやったんですけど、周りが徐々にスノーボードに変わって行って、自分もスノーボードに変えました。

角：僕より若いじゃないですか！

事務長：それと、ダイビングもやりましたね。

角：もしかして、免許をお持ちですか？

事務長：はい。和歌山の串本あたりで潜ってましたね。5年くらいかな。

角：僕は素もぐりやってました。今は無理ですけどね。僕と一緒に体動かすのはお好きなんですね。

休みの日なんかはどんな風に過ごされていますか。

事務長：ほとんど庭いじりをしています。

盆栽まではいかないんですが、庭に小さい木があって、伸びたらちよきちよきと、ちょっと形を考えながら剪定したり、松の木が1本だけあるので、その松の木をネットを頼りに、ここをこう延ばしたらいい形になるとか、ここを切ったら横からでてくるとか、色々想像しながらやってます。結構素人がやると時間がかかるんですよ。

角：楽しいですよ。昨年亡くなった父も盆栽いじりが好きで、よくやっていました。

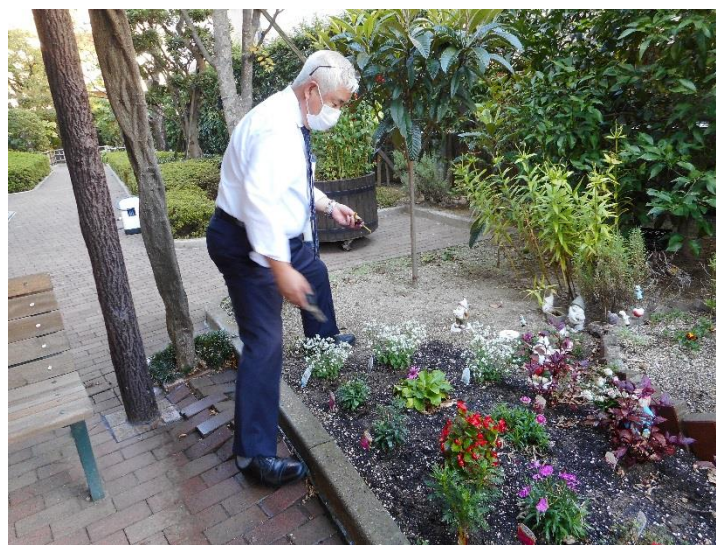
他にリフレッシュ方法は？

photo

右上：ケアヴィラ宝塚中庭のお手入れ風景

右下：末成小学校まちたんけん

児童のみなさんに施設紹介をされています



事務長：10年くらい前までバイクに乗ってよくツーリングに行っていました。年齢を考えると、今はやめましたけど。

角：初夏の季節なんかは気持ちいいですよ。まあ、いろいろとされてるんですね。

事務長：今思ってるのは、もう1回体がいうことをきけばスキーに行ってみたいなって……。いつもお正月にはね、新潟の赤倉に行っていました。

角：温泉はお好きじゃないですか？

事務長：温泉行きたいんですが、犬を飼ってるので、なかなか家をあげられなくて行けないですね。

角：事務長は食べること、飲むことも好きですね。小耳にはさんだんですが、選択メニューの日にAとB両方召し上がられたという逸話をお持ちだとか。おすすめのグルメ情報はありますか？

事務長：僕、ギョーザが好きでね、それまで1番美味しいギョーザは三宮高架下の珉珉だと思っていました。珉珉の薄皮のギョーザを酢醤油で食べるのが一番好きだったんです。それが最近変わって、同じ珉珉でも、門戸厄神にある珉珉が一番になりました。



角：何か違いは？

事務長：焼き方かな？門戸厄神は必ずオーダーがでてから焼き上げるので常に美味しいです。オススメです。

角：今度落ち着いたら食べ比べしてみます（笑）

さきほど、犬を飼ってらっしゃるとお聞きしましたが、事務長は、ご自身を動物に例えるならこれ！というのがありますか。

事務長：犬を飼ってるので犬かなと思いますね。うちの犬はヨークシャテリアなんですけど、結構、人を見るんですよ。僕よりどちらかといえば、家内に懐いてて。おそらく家内のほうが、ごはんあげたり世話してるから、そちらにいくほうが正解と判断してるんだと思います。

角：（笑）犬は人懐っこくて、忠実ですよ。

事務長：そういえばその前に甲斐犬を飼ってました。来られた人をううう〜と威嚇して、ワンッと吠えて、番犬には最高でしたね。怖いんだけど、飼い主には従順でした。頭も賢かったですね。それに比べて今の犬は全然（笑）

角：（笑）（笑）でも、ほっておけない愛嬌のあるところが事務長に似てるのかも。



photo

ケアヴィラ宝塚エントランスホールにて

ケアヴィラ宝塚の魅力、今後の展望

角：最後の質問ですが、ケアヴィラ宝塚でこれはと自慢できること、また、今後の展望などありましたらお聞かせ下さい。

事務長：今日もね、ゲスト様が退所されたんですが、帰り際に泣いておられたんです。スタッフに投げキッスをしたり、賑やかな雰囲気であんなに送り出して、それでゲスト様が「寂しいよ〜」って泣いてらして……。その光景が全てじゃないかなと。

やっぱりここが生活の場になって、ケアを受けて、在宅復帰される、別れづらい、悲しいよと、そういう雰囲気がつくれたら素晴らしいと思います。

角：僕も以前遠方の施設へうつられる方に、一緒について来てと言っていたことがありますが。とても有難かったですね。

事務長：感謝してもらえそうなケアができていたってことですね。今後もそういうお声をいただけるような職場環境づくりに努めたいと思います。

角：ご家族様へ向けてメッセージをお願いします。

事務長：現在、新型コロナウイルスが猛威をふるってます。高齢者施設の私共としては「うつらない」「うつさない」を基本に感染防止に努めています。大切なご家族を守るため、心苦しいですが、11月16（月）より、面会を禁止し、タブレットでの面会とさせていただきます。一日でも早く通常の生活に戻りますようお願いばかりです。

（取材日：令和2年11月27日）



～対談を終えて～

3階ケアスタッフ

角 和正（すみ かずまさ）

非常にお話がお好きで、時間を忘れるほど終始会話を楽しまました。穏やかな風貌そのままのほっこりするところや、長年の接客で培われた柔軟さ、たくましさも垣間見ることができました。ためになるお話を聞かせていただき、とても貴重な時間でした。